

ワクチン4万人接種開始

医療従事者、健康調査も

国内初となる新型コロナウイルスのワクチン接種が17日、医療従事者に対する

先行接種から始まった。国立病院機構など全国100カ所の医療機関の計約4万人が受けた予定だ。うち2万人を健康調査の対象とし、この間に副反応などの情報を集め、4月以降、高齢者をはじめ幅広い住民の接種につなげる。

▼2面=副反応は、3面=情報不足に不安

厚生労働省によると、17日午後5時までに首都圏の8施設で計125人に接種

が行われた。接種直後の死亡や重いアレルギー反応は報告されていないという。

先行接種に使われる米製薬大手ファイザーとドイツのバイオ企業ビオンテック

が開発したワクチンは短期間で特例承認され、国内の治療は約160人分で、副反応のデータなども少ない

回開くという。全国で最も早く接種が始

った東京都目黒区の国立病院機構東京医療センター

会は少なくとも数週間に1回開くという。全国で最も早く接種が始

った東京都目黒区の国立病院機構東京医療センターは、3月31日までに先行接種で計800人を記録する。同センターには医師や看護師、事務員、清掃などにかかわる委託業者(計約1800人がいる)が毎日登場する。

2月中旬～	医療従事者 (先行接種) 約4万人
3月～	その他の 医療従事者 約370万人
4月～	65歳以上の 高齢者 約3600万人
4月以降	持病のある人 約820万人 高齢者施設 などの従業者 約200万人 60～64歳の人 約750万人 一般の住民ら

■厚生労働省新型コロナワクチンコールセンター
(ワクチンの基本情報や優先接種の順番などに対応)

電話番号：0120-761770
(フリーダイヤル)
受付時間：9時00分～21時00分
(土日・祝日も実施)



新型コロナウイルスのワクチン接種を受ける医療従事者(奥左)。手前は経過観察のため待機する人=17日午前9時17分、東京都目黒区、代表撮影

政府が医療従事者を最優先したのは、患者に頻繁に接し、感染リスクが高いため。ワクチンで感染リスクを抑えることで、入院患者の感染防止や医療の提供体制の確保につなげる狙いがある。

(畠田洋平)

先行接種の2万人 健康調査

新型コロナウイルスへのワクチン接種が国内でも17日、医療従事者から始まった。一般の人への接種は4月以降、高齢者からとなる。新型コロナのワクチンは高い有効性が報告されているが、ワクチンの利益とリスクをひとりの人が理解したり自分で接種を決められるようになると、国が配当の情報を集めて発信するしくみが重要なとなる。

卷之三

副反応の情報分析「迅速な公開を

ワクチン接種後の有害事象		
	1回目	2回目
有害事象と副反応	67.7%	74.6%
有害事象は、ワクチンとの因果関係の有無にかかわらず、接種後におきた症状など。ワクチンと無関係なものも含まれる。有害事象として報告されたもの	28.6%	50.0%
接種部位の痛み	25.6%	41.9%
倦怠(けんたい)感	17.2%	41.6%
頭痛	7.0%	26.7%
筋肉痛	7.4%	25.2%
寒気	6.8%	26.7%
発熱	接種部位の腫れ	

ワクチン接種後の有害事象	1回目	2回目
接種部位の痛み	67.7%	74.8%
倦怠(けんたい)感	28.6%	50.0%
頭痛	25.6%	41.9%
筋肉痛	17.2%	41.6%
寒気	7.0%	28.7%
発熱	7.4%	25.2%
接種部位の腫れ	6.8%	26.7%

関節痛 7.1% 21.2%
吐き気 7.0% 13.9%

接種後のアナフィラキシーの頻度

接種100万回あたり
4.7件



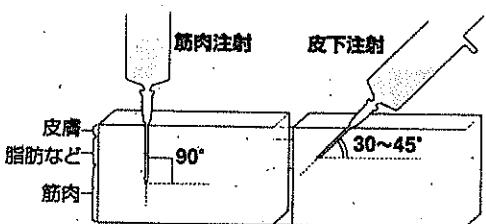
じんましんや呼吸困難、腹痛などが同時に起こる重いアレルギー反応。アデランネリンを注射するなどで応急処置ができる。米疾患対策センターの資料や論文から。ファイサーなどのワクチンの場合

は、より定義の広い有害事象の報告を集め、因果関係の有無を精査する必要がある。

（六）マサ・社製の「スカルピング」は「筋肉注射」という法で接種する。日本では「皮下注射」が一般的で、なじみが薄いが、筋肉注射では一時的に腫れたり痛んだりする「局所反応」が比較的少ない、効果は同等を高めとされる。

17日は日本で最初に接種を受けた国立病院機構東京医療センターの新木一弘臨院長は記者会見で、「注射が好きではないけれど、あきらめず、うんざり痛くなくてボソッとした。皆さんにも知つていただきたい」と話した。

日本の予防接種では、皮膚の下にある脂肪などの固



まで鍼を垂直に刺す。海外ではこれが主流で、今回のワクチンの治療も筋肉注射で実施されている。日本での接種もすべて筋肉注射となる。

2009年に発表されたカナダのグループによる研究では、注射の方法によって痛みに違いが出るとは言えないとしている。国際医療福祉大の矢野晴美教授（臨床感染症学）は「体の表面には神経も細かい血管もあるので、針が刺されると痛い。どちらの方法でも痛みは一時的なものなので安心してほしい」と話す。

注射の痛みについて、千

葉大病院で小児がんの治療にあたる岡田玲緒奈医師は「客観的な評価は難しいが、注射する成分が体液と異なると、刺激になつて痛いと感じる」と話す。ファイザーのワクチンは、原液を体液に近い生理食塩水で薄めて接種し、量もインフルエンザの場合より少ない0・3ミリットルだ。米国の病院で働く井上靖章医師(32)は昨年12月に接種を受け、「チックとして冷たいものが入っていく感触、それで終わらなかった」と振り返る。

かの点。
日本小児科学会の資料によると、1970年代に解熱薬や抗生素が筋肉注射された後、筋肉が固まつて運動障害などの症状が出た人が3千人以上報告された。症状と接種方法の関連はよくわからないかったものの、筋肉注射は避けられるようになつたといふ。

国際医療福祉大の矢野教授は、「ワクチンをめぐつては接種方法だけでなく、費用負担などの制度面で国内外に差がある。コロナワクチンを機に改めて議論を深めたい」と話す。

(三上正一、野口慶太)

「痛みはほとんどなかつた。病院の中でも不安がなく仕事ができ、患者さんなどつても安心である」といふ東京都墨田区の国立病院機構東京医療センター。17日に接種を受けた看護師の女性はこの感想を述べた。同センターでは接種後には発熱などで仕事を休む人が出る可能性も考え、1日で約60人ずつ接種する。医師は外来や手術の前日の接種は避け、看護師なら、休日の前に接種するところだ。新型「コロナのワクチン」は、国内外の臨床試験（治験）で安全性に大きな問題点は見つからていない。国内の治験結果によると、副作用は注射後の接種部位の痛みが79・3%、疲労が60・3%（いずれも2回目の接種後）など。海外の結果と大きな違いはないとの判断され、承認された。米疾病対

策センター(CDC)の
料によるとい、1月14日朝
に報告された有害事象の
度は接種部位の痛み70%
▽倦怠感33・4%
ど。1回目より2回目の
種後に頻度が高まる傾向
あった。

反感「アナフライヤー」が頻で接ながる。コクチの成分に含まれる「ボリューチンクリーナー(PEFCG)」が原因となる。ついてる可能性が指摘されている。化粧品や歯みの薬なども使われている。

これが大掛かりな医療行為を禁じて、
その実現をめざすものである。このため、
医療機関や製造販売業者から、医薬品の審査をする医
療専門家が、その職務として、医薬品の審査を行つて、
その結果をもとに、医薬品の安全性を評価する。
この評価結果に基づいて、医薬品の安全性を評価する。
この評価結果に基づいて、医薬品の安全性を評価する。

日本ワクチン学会は、接種事業について「リスクコミュニケーション」(リスクについての情報共有)を取つたうえで、慎重に進めていく必要がある」と説明。接種後の副反応に関する情

なのがて生活や仕事への影響が変わるだろう。どんな症状が何日間続いたのか、いつ収まったのか、発熱なら37度なのか38度以上なのかなど、詳しい情報を公開することが、今後接種を検討している人の参考になる」と話す。

業品医療機器総合機構（P.M.D.A.）に報告があがり、報告された症状とワクチンに因果関係があるかどうかを調査するしくみになつていて。今回のワクチンは、わざと限られた迅速な情報公表を試みたものである。調査結果は厚労省の部会で評価する。部会の開催は通常2か月間に1回だ。開が大事だ。副反応は2ヶ月で軽快すると言われるが、続く症状が接種部位の痛みなのか発熱や倦怠感提言している。